

(仮称) 札幌博物館展示・事業基本計画



札幌市

(仮称) 札幌博物館展示・事業基本計画【概要版①】

1. 計画の目的

- (背景)
- 平成10年の『札幌市博物館基本計画(提言)』を受け、平成13年に策定した『札幌市博物館計画推進方針』に基づき博物館活動センターを開設し、活動を継続
 - 平成26年度にこれまでの活動成果や課題を踏まえ、『(仮称)札幌博物館基本計画』を策定

- (計画の目的)
- 『(仮称)札幌博物館基本計画』に基づき、市民とともに札幌の自然と人との関わりを探求し、札幌の未来に貢献する博物館を創り上げるための「博物館における具体的な展示や事業に関する考え方」を整理し、その方向性を定め、博物館整備を計画的に進める

2. (仮称)札幌博物館設置に向けての基本的な考え方

① (仮称)札幌博物館が今必要な理由

- 札幌には北海道博物館や北海道大学総合博物館があるが、札幌に焦点を当てた博物館はない。⇒札幌市民が郷土の自然・歴史・文化についてより深く学び、札幌を訪れた方にその魅力を十分に伝える場が必要。

② (仮称)札幌博物館の使命

- 使命1：札幌市民としての郷土への愛着と誇りを育む
- 使命2：創造性あふれる人材の育成
- 使命3：自然と人の観点からまちづくりに貢献

③ 求められる博物館像と、その基本テーマ・領域と特徴

より効果的に学び体験ができる (仮称) 札幌博物館

- 地域に目を向け、関心を持つことで、札幌への愛着を深めることができる。
- 博物館での学びは、札幌を知りその良さを深めたいという欲求につながり、地域環境の持続可能性や生物多様性の保全とその恵みを持続可能な形で利用するなど、地域づくりに結びつける。

基本テーマ「北・その自然と人」のもと、市民みんなで札幌の「自然と人の関わり」を探求し、札幌の未来に向けて進化・発展し続ける博物館

領域 石狩低地帯形成の1億3千万年

特徴 自然史の視点から札幌の自然、歴史、文化を明らかにする「自然史系博物館」

3. 札幌市博物館活動センターの活動と成果

札幌市博物館活動センターでは、調査・研究や資料の収集・保存、普及・交流事業など、展示と市民活動等を中心とするソフト事業重視の活動を行ってきました。

- 調査・研究…サッポロカイギュウ化石・小金湯産クジラ化石、希少植物調査など
- 収集・保存…札幌の自然と人の関わりを探求するための基礎的資料9万点以上
- 普及・交流…体験学習会やサイエンス・フォーラム、ミュージアム発行など

4. 博物館事業の概要

- 基本テーマのもと札幌の自然・歴史・文化を実感する「本物」の迫力や魅力を伝える。
- 館の使命と役割を明確にし、活動の地域とテーマを、札幌と石狩低地帯を中心に絞ることに伴って、施設設備、人員を限定する。
- 同時に自然史の分野に重点を置くことにより他館との差別化を図る。

① 事業活動の構造と活動内容

(仮称)札幌博物館の柱となる下記の3つの事業を相互に関連させながら事業を展開します。

感動伝達事業

展示

- ・総合展示 ・企画展示
- ・展示見学支援 など

学習支援

- ・学習支援 ・学習プログラムの提供
- ・学校との連携 など

地域課題解決事業

資料収集・保存

- ・体系的な資料収集 ・資料の保存、管理
- ・情報提供(レファレンス) など

調査・研究

- ・調査、研究 ・研究成果の発信、公開
- ・研究交流 など

つながり創出事業

つどい・交流

- ・市民活動の場の提供
- ・情報発信の場の提供
- ・交流・サービスの場の提供 など

人材育成

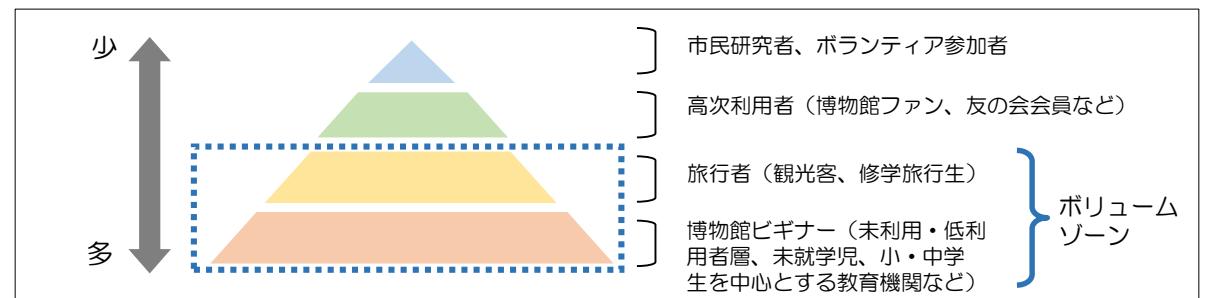
- ・市民の自主活動の育成・連携
- ・後援団体との連携
- ・協働などの体制づくり など

まちなか連携

- ・web上での情報発信
- ・出張博物館の展開
- ・市内各地のフィールドにおける連携の展開 など

② ボリュームゾーンの考え方と対応

(仮称)札幌博物館の主要な来館者層「ボリュームゾーン」は下記を想定します。



多くの人々が足を運ぶ施設とするため、子どもを中心とする博物館の低・未利用者と札幌市を訪れる観光者を主たるボリュームゾーンと捉え、その来館意欲に働きかける展示や事業を構築します。

(仮称) 札幌博物館展示・事業基本計画【概要版②】

5. 展示の基本的な考え方

- 現在の札幌の自然と街を育んだ経緯について、生命と自然がたどった「今の自分」につながる壮大な物語を驚きと感動を持って実感させる。
- 現在の札幌が生まれた背景に、大きく関わる「自然」の「なぜ？」を探り、今日の札幌がある理由を知ることができる。
- 導入展示から3つのテーマ別展示へは、博物館が導線を定めることなく、来館者の興味関心や滞在時間に合わせて自由に選択することができる。

「札幌の自然に隠された謎と
その秘密！」に迫る展示構成

6. 各展示の概要

(1) 導入展示 北緯43°の街

キーワード **札幌を学び楽しむヒント**

- 博物館のガイダンスと札幌を学び楽しむヒントを提示
- ポリウムゾーン層も一目で「札幌らしさ」や、札幌の魅力を理解できる展示



(2) テーマⅠ 札幌の生命と進化

キーワード **札幌の巨大化石**

- 北海道・札幌の成り立ちから生物巨大化の謎に迫る。札幌の巨大生物サッポロカイギュウ・小金湯産クジラと、他の巨大生物を併せて展示



(3) テーマⅡ 札幌の自然

キーワード **北と南が出会う街**

- 人々から愛される札幌独自の魅力的な自然を、その成り立ちから謎に迫る。石狩低地帯の植生を展示し、札幌が生物の南北移動の交差点となったことが分かる展示



(4) テーマⅢ 札幌の街と人

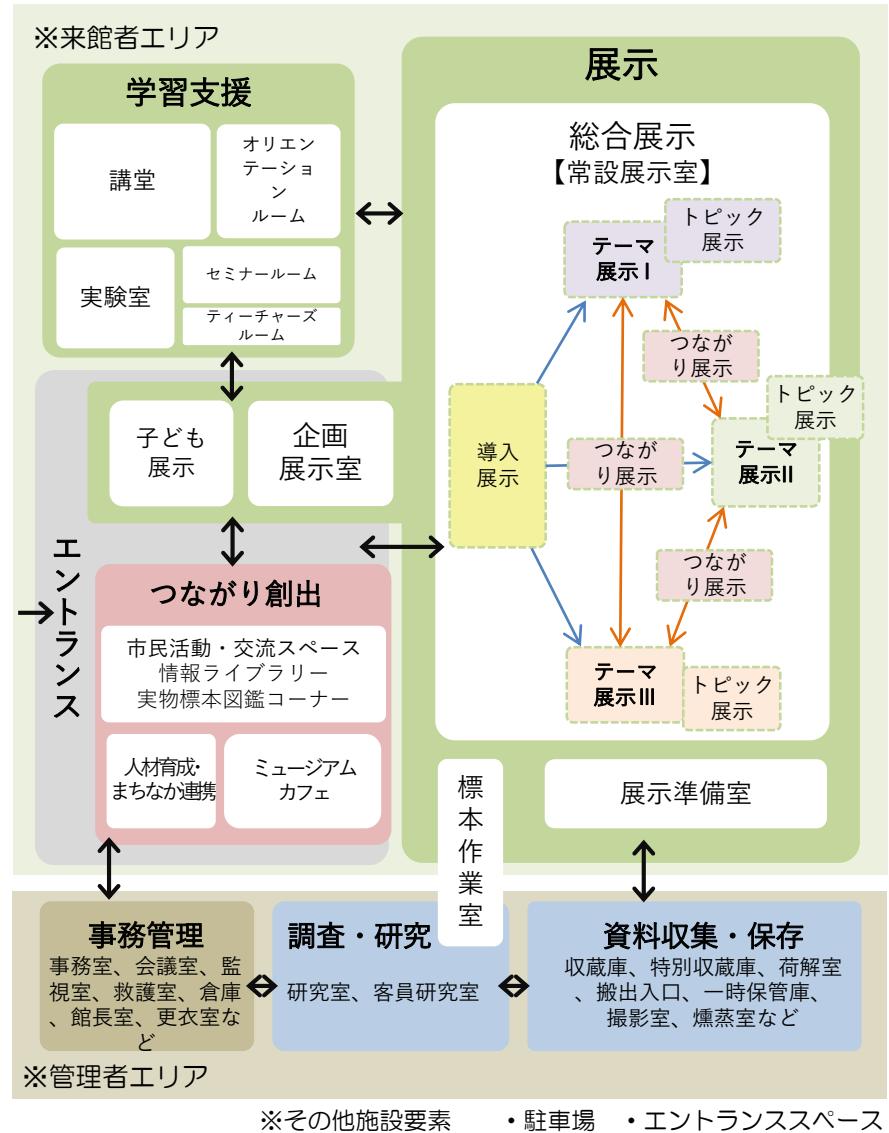
キーワード **150年で200万都市**

- 自然と街と人を通して大都市札幌誕生の秘密とその謎に迫る。昭和期の札幌中心市街地を実物大に復原展示し、タイムスリップした感覚を楽しむ展示



7. 想定される諸室機能

来館者エリア・管理者エリア、無料・有料ゾーンの区分など、主動線から諸機能にアクセスしやすく、関連する機能を近づける工夫をし、利用しやすく、無駄のない配置を検討します。



(仮称) 札幌博物館の延床面積については、(仮称) 札幌博物館基本計画で示した10,000~17,000㎡の範囲で、展示物等収容可能であると推定されます。具体的な諸室構成、面積などの詳細については、整備基本計画で検討を進めます。

— 目次 —

| | |
|-----------------------------|----|
| 1. 計画の目的 | 1 |
| 2. (仮称) 札幌博物館設置に向けての基本的な考え方 | |
| (1) 社会動向 | 2 |
| (2) (仮称) 札幌博物館が今必要な理由と使命 | 2 |
| (3) (仮称) 札幌博物館の基本テーマ、領域と特徴 | 3 |
| (4) (仮称) 札幌博物館の目指す姿 | 3 |
| 3. 札幌市博物館活動センターの活動と成果 | |
| (1) 札幌市博物館活動センターの利用動向 | 4 |
| (2) 調査・研究 | 4 |
| (3) 収集・保存 | 4 |
| (4) 普及・交流 | 5 |
| (5) 展示 | 5 |
| (6) 活動の成果と課題 | 5 |
| 4. 博物館事業の概要 | |
| (1) 博物館の全体像 | 6 |
| (2) 事業活動計画 | 7 |
| 5. 展示の基本的な考え方 | |
| (1) 基本方針 | 11 |
| (2) 展示構成計画 | 13 |
| (3) 展示の特徴 | 14 |
| 6. 各展示の概要 | |
| (1) 導入展示 北緯43°の街 | 15 |
| (2) テーマⅠ 札幌の生命と進化 | 16 |
| (3) テーマⅡ 札幌の自然 | 17 |
| (4) テーマⅢ 札幌の街と人 | 18 |
| 7. 想定される諸室機能・候補地 | |
| (1) 博物館の施設構成の想定 | 19 |
| (2) 諸室関連(概念図) | 21 |
| (3) 博物館の候補地 | 22 |
| 8. 参考資料 | |
| (1) 用語集 | 23 |
| (2) 来館者数について | 26 |
| (3) 有識者ヒアリング資料 | 27 |
| (4) 展示構成リスト | 30 |

1. 計画の目的

計画の目的

札幌市では、平成10年の『札幌市博物館基本計画(提言)』を受け、平成13年に策定した『札幌市博物館計画推進方針』に基づき、博物館活動センターを開設、現在まで10余年にわたり、博物館活動を進めています。

その間、社会情勢や社会環境は大きく変化し、博物館に求められる役割も見直す必要が生じたことから、平成26年度にこれまでの博物館活動センターにおける活動成果や課題を踏まえ、新たに博物館の基本計画となる『(仮称)札幌博物館基本計画』を策定しました。

『(仮称)札幌博物館展示・事業基本計画』は、(仮称)札幌博物館基本計画に基づき、(仮称)札幌博物館で取り組む事業や展示内容などについて取りまとめることを目的に策定しました。平成27年度から平成28年度に行った博物館での事業や展示物などの調査や分析、平成29年度に実施した内容の精査、有識者からの意見聴取などを踏まえて、市民とともに札幌の自然と人との関わりを探求し、札幌の未来に貢献する博物館を創り上げるための「博物館における具体的な展示や事業に関する考え方」を整理し、その方向性を示しました。

< 経 緯 >

昭和61(1986)年度

- ・教育委員会で自然史系博物館の検討を開始

平成8(1996)年度

- ・札幌市博物館基本構想委員会から「北・その自然と人」を基本テーマとする自然系総合博物館を目指す提言を受理
- ・札幌市博物館建設準備委員会設置

平成10(1998)年度

- ・札幌市博物館建設準備委員会から、「北・その自然と人」をテーマとし、市民とのパートナーシップを基本とした博物館づくりを目指す内容と開館準備、活動計画に関する提言を受理

平成13(2001)年度

- ・平成10年の提言を受け『札幌市博物館計画推進方針』を策定し、博物館整備に対する基本的考え方と方向性、開館準備期における博物館活動の指針を決定
- ・上記の方針を受け、博物館活動を先行させるため、博物館活動センターを開設以降、博物館活動センターにおいて、さまざま博物館活動の取り組みを実施

平成23(2011)年度

- ・第3次札幌新まちづくり計画(～平成26年度)がスタートし、これまでの博物館活動の成果を踏まえ、札幌の自然と人の関わりなどを市民とともに探究する、街や市民に開かれた新たな博物館計画を策定することを決定

平成24(2012)・25(2013)年度

- ・上記の計画を策定するため、次世代型博物館計画検討委員会を発足

平成26(2014)年度

- ・新たに『(仮称)札幌博物館基本計画』を策定

2. (仮称) 札幌博物館設置に向けての基本的な考え方

現在の社会動向と、平成27年3月に策定した「(仮称) 札幌博物館基本計画」における設置に向けた基本的な考え方を示します。

(1) 社会動向

人口減少、少子高齢化が進行し、都市化によるコミュニティ*の希薄化が懸念される中、博物館は、誰もが足を運びやすい生涯学習の場として、また多様な人々が集まり交流する地域活性化の拠点および観光振興の拠点としての役割も期待され、博物館に求められる役割は大きくなってきています。

①国内および札幌市をめぐる状況

人口減少、少子高齢化

- 少子高齢化の進展に伴い高齢単身世帯が増加し、孤立しがちな人が増えることや、地域での付き合いや交流の減少などによる社会との関わりの少ない市民の増加が懸念されており、地域コミュニティの活性化や高齢者の活躍の場づくりなどが必要

地球環境の持続可能性や生物多様性*への関心の高まり

- 東日本大震災などの自然災害を受け、自然と人の関わり、環境、資源エネルギー利用のあり方への関心の高まり
- 外来種の移入や都市開発に伴う自然環境の変化に伴い、動物の都市部への出没や農作物への被害などが生じており、地球環境の持続可能性や生物多様性に対する社会的関心の高まり

②博物館をめぐる状況

博物館の教育効果、交流促進、文化・観光促進への期待

- 平成18(2006)年の教育基本法改正により、博物館は市民の多世代交流、街の魅力探求、地域の教育力*の向上などの機能を持つことへの期待が増大
- 近年における人々の価値観やニーズの多様化を背景に、年齢を問わない、あらゆる世代の学習要望の高まりや、市民の参画や協働による地域づくり、ボランティアに対する関心や活動の質の高まりから、その受け皿としての博物館への着目
- 教育目的のほか、文化・観光の振興、地域活性化や人々の交流の拠点など、博物館が担う役割の拡大

博物館への期待の高まり

身近な地域の自然と人の関わりを
知り、探求する場として

地域活性化の拠点として

生涯学習の場として

観光振興の拠点として

(2) (仮称) 札幌博物館が今必要な理由と使命

札幌の魅力を伝え、発信することは、札幌への愛着や探求心を生むこととなり、人材の育成につながり、文化・観光の振興や交流人口の増加などにも寄与することと言えます。

札幌市内には、北海道博物館や北海道大学総合博物館があるものの、札幌に焦点を当てた博物館はなく、札幌市民が郷土の自然・歴史・文化についてより深く学び、札幌を訪れた方に、札幌の魅力を十分に伝える場がありません。

札幌の未来への貢献に向け、博物館の使命を下記のとおり設定します。

使命1：札幌市民としての郷土への愛着と誇りを育む

自然と人との関わりについての関心が高まっていますが、札幌の自然と人については、これまでその全容は明らかになっていません。(仮称)札幌博物館では、札幌の資料を収集・保存、調査・研究し、その成果を展示や講座などを通して市民に伝え、広げることによって、札幌の自然・歴史・文化の独自性を明らかにし、札幌市民としての愛着と誇りを育てていく役割を担います。

2. (仮称) 札幌博物館設置に向けての基本的な考え方

使命2：創造性あふれる人材の育成

(仮称) 札幌博物館が生涯を通じた学習の場となるよう、市民による自主的な博物館活動を支援し、札幌の魅力を高めていけるような創造性あふれる人材を育成します。

使命3：自然と人の観点からまちづくりに貢献

あらゆる世代の市民が集い、交流する場として、活力ある地域づくりに寄与していく活動拠点となっていきます。また、博物館活動を通じて得た、自然と人との関わりに関する知見を市民みんなで共有し、環境保全などまちづくりの分野に活かすほか、多くの方に札幌の魅力を発信することでにぎわいを創出し、観光資源としての役割も果たしていきます。

(3) (仮称) 札幌博物館の基本テーマ・領域・特徴

(仮称) 札幌博物館は、平成8(1996)年度に札幌市博物館基本構想委員会が示した基本テーマ「北・その自然と人」を引き継ぎ、市民とともに自然・歴史・文化の独自性を自然史の視点から探求し、札幌の魅力を発信し伝える、未来に向けて進化・発展し続ける博物館を展開します。

この基本テーマは、札幌市が“日本列島の北に位置すると同時に、地球規模でみると北と南の接点ともいえる中緯度にあること”、“北と南の要素がどのように出会って交流してきたのが、札幌の自然と歴史と文化の独自性を生み出した重要な要素であること”を理由に設定されたものです。

基本テーマ「北・その自然と人」のもと、
市民みんなで札幌の「自然と人の関わり」を探求し、
札幌の未来に向けて進化・発展し続ける博物館

領域 石狩低地帯形成の1億3千万年

特徴 自然史の視点から札幌の自然、歴史、文化を明らかにする「自然史系博物館」

(4) (仮称) 札幌博物館の目指す姿

子どもをはじめとした次世代人材の育成

博物館は、驚きと感動をもって知らないことを発見でき、その楽しさが、達成感や自己実現をもたらし、人材を育てます。

札幌市の独自性や魅力を伝え、地域資産を継承

札幌独自の自然、歴史、文化的資産や魅力を体系的に収集・保存し、その調査・研究を行い、市民の共有財産として未来に継承します。

地域コミュニティ創造、文化・観光の振興への寄与

札幌の理解を深めることで札幌がますます好きになり、博物館に集まる人々の活動やコミュニケーションが生まれ、交流人口を拡大し、地域を共に創り上げていく力を生みます。

より効果的に学び体験ができる (仮称) 札幌博物館

- 地域に目を向け、関心を持つことで、札幌への愛着を深めます。
- 博物館での学びは、札幌を知りその良さを深めたいという欲求につながり、地域環境の持続可能性や生物多様性の保全とその恵みを持続可能な形で利用するなど、地域づくりに結びつきます。

3. 札幌市博物館活動センターの活動と成果

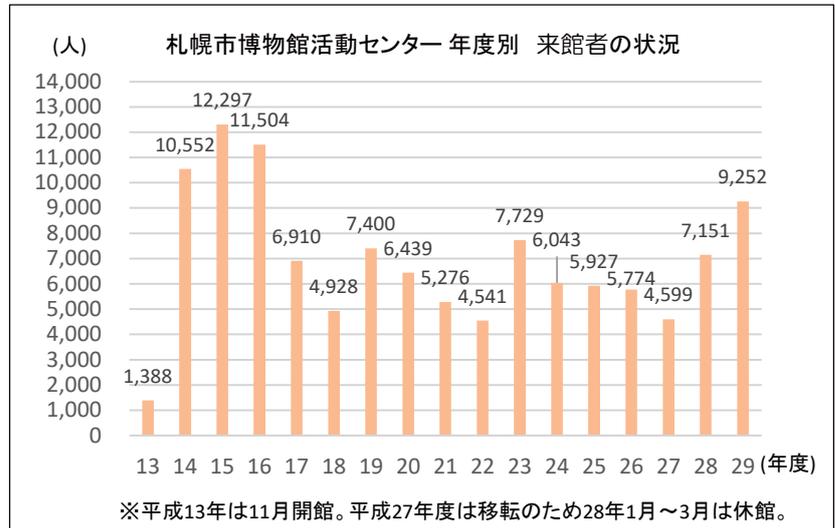
平成13年（2001年）に策定された「札幌市博物館計画推進方針」に基づき、博物館の整備に向けた準備施設「札幌市博物館活動センター」（以下「センター」という。）が同年11月に開設され、調査・研究や、資料の収集・保存、普及・交流事業など、展示と市民活動等を中心とするソフト事業重視の活動を行ってきました。

（1）札幌市博物館活動センターの利用動向

センターは、入居していたリンクージュプラザの閉鎖に伴い、豊平区に移転し、平成28年4月に移転再オープンしました。

移転後は、札幌駅前地下歩行空間でのイベントの開催、小学校のクラブ活動支援、小学校でのデリバリーミュージアムなどの普及・交流事業を積極的に取り組んでいます。

その結果、平成28年度にはセンターの来館者数は5年ぶりに7,000人を超え、平成29年度には、9,000人の来館があり、センター館外で実施した行事・イベントなどの事業参加者をあわせると延べ13,238人を数えました。



（2）調査・研究

「サッポロを知る」「サッポロを結ぶ」「サッポロから広げる」「サッポロによせる」「サッポロを楽しむ」をテーマとした5大プロジェクトをこれまで実施しています。小学5年生によるサッポロカイギュウの化石の発見や、約200人の市民の協力による「札幌市セミ調査」を実施するなど、多くの市民が調査に参加し、成果を上げてきました。

- サッポロカイギュウ*化石の研究
 - ・市民参加による発掘で、複数個体の化石を発掘
 - ・道内、国内外のカイギュウ化石との比較研究、年代測定などにより世界最古の大型カイギュウ化石であることを解明。
- 小金湯産クジラ*化石の研究
 - ・平成28年度より足寄動物化石博物館の協力を得て、詳細クリーニング作業及びレプリカの作成を実施。頭部のクリーニング作業にも着手し、その全貌解明に向けた取組強化。
- 札幌の希少植物調査
 - ・絶滅の恐れのある札幌の植物を中心に、生息・植生調査などを実施。
 - ・数十年ぶりの生息確認や新たな生息地を発見するなどの成果。

（3）収集・保存

センターでは、基本テーマを具現化する資料を体系的に収集・保存する方針で、札幌市内や石狩低地帯を中心とした道内の標本を継続的に収集しています。

古生物を中心とする世界的にも貴重な資料の収集実績があり、また動物（昆虫）や豊平川の総合研究として水生昆虫や水生植物相、豊平川さけ科学館と協力し魚類などの調査・資料収集にも取り組んできました。

現在までに、札幌の自然と人の関わりを探求するための基礎的資料が9万点以上収集・保存されています。

※一次資料：実物資料（直接資料）
 ※二次資料：実物資料以外の「記録」されることにより生じた資料（間接資料）

平成29年3月現在の資料収集点数（累計）（単位：点）

| 区分 | 一次資料 | 二次資料 |
|-----|--------|--------|
| 地質 | 459 | 7,888 |
| 古生物 | 2,876 | 4,966 |
| 動物 | 57,340 | 0 |
| 植物 | 7,034 | 12,482 |
| 菌類 | 941 | 217 |
| 考古 | 45 | 0 |
| 小計 | 68,695 | 25,553 |
| 合計 | 94,248 | |

3. 札幌市博物館活動センターの活動と成果

(4) 普及・交流

実習室や講義室で市民向けの講座を実施するほか、屋外での体験学習会も実施し、施設内外を通じて普及・交流事業に取り組んでいます。(平成13年度～平成29年度)

- 体験学習会
 - ・化石のレプリカ作りや、野外観察会など施設内外を通じて延べ115回、延べ2,880人が体験学習会に参加
- 市民と連携した事業
 - ・サイエンス・フォーラムinさっぽろ：平成22年に市民とともに「サイエンス・コンソーシアム札幌」を立ち上げ、市民向けのフォーラムを44回実施し、延べ3,132人が参加
- 学校連携事業
 - ・小学校クラブ活動支援（1校）
 - ・デリバリーミュージアム（延べ9校）
 - ・スクールモバイルミュージアム実証実験（延べ3校）
- その他の連携事業
 - ・「地質の日」関連企画展
北海道大学総合博物館ほか5機関と連携し、「地質の日」関連の企画展や講演などを実施
 - ・「平岸高台小博物館クラブ」と「西岡さかな組」・「西岡ヤンマ団」の活動発表交流会の実施
 - ・とよひら子どもユメひろば「化石博士への道」への参加
 - ・CISEネットワーク：北海道大学総合博物館を中心とした実物標本を用いた科学教育への参画
- イベント及び広報
 - ・平成28年度・29年度には札幌駅前地下歩行空間を利用した博物館活動センター紹介事業を実施
5,000人以上を集客する大規模イベントでの展示、トークショー、ワークショップ*を実施
 - ・サッポロカイギュウの出前展示：まちなか（百貨店・ビル）や公共施設内での展示
 - ・カルチャーナイト：夜間開館、収蔵庫特別ツアー、科学絵本読み聞かせ会などを実施
 - ・博物館活動センター情報誌「ミューズレター」の発行を1999年から継続。通算発行回数は68回を数える。



小学校に活動センターの体験学習プログラムをお届けするデリバリーミュージアム。

(5) 展示

- 常設展示（収蔵展示室）
 - ・サッポロカイギュウの骨格標本や石狩低地帯の地史や動植物を紹介
- 企画展示
館内では年に数回、企画展示を実施しています。

《平成28年度》

- ・北海道のアンモナイト化石の美と魅力
- ・西岡公園調査報告展
- ・はくぶつかんのたまご展

《平成29年度》

- ・札幌のクジラ化石展
- ・札幌の水草展
- ・かるたで知る札幌の植物展
- ・博物館活動日誌



常設展示の様子

(6) 活動の成果と課題

センターでは、サッポロカイギュウ化石の研究や小金湯産クジラ化石の研究、札幌の希少植物調査など、将来の博物館整備に向けた調査・研究、資料の収集・保存を着実に進め、体験学習会や市民と連携した事業を実施するなど、普及・交流事業を積極的に行いました。その結果、平成28年4月に豊平区に移転再オープンしたのち、来館者が年々増加しています。

現在、センターには古生物・植物を専門分野とした2名の学芸員が調査・研究、普及・交流事業を進め札幌の魅力を発信していますが、研究分野の偏りや多様な分野や目的に対応したプログラムが提供できないなど、自然史に関する幅広い分野で取り組みを進めることが課題となっています。

今後については、普及・交流事業を充実させ魅力的なプログラムを創造し、来館者の増加や博物館活動参加者の満足度の、より一層の向上に取り組みます。

4. 博物館事業の概要

(1) 博物館の全体像

博物館活動の基盤となるのは「調査・研究」の蓄積と、それに基づく「収集・保存」です。札幌市独自の貴重な標本群（コレクション*）をかたちづくり、市民に広く公開、かつ有効に活用し、地域の人々や関連施設などと連携して、多様な学びを提供していきます。

①基本姿勢

- 自然史系博物館として、自然史の視点から資料の収集・保存、調査・研究を行います。
- 博物館の価値そのものともいえる調査・研究実績の蓄積と標本群（コレクション）の収集・保存を行います。
- その成果を展示やイベントなどの各事業を通じて発信します。

②事業の捉え方

博物館の基盤事業である「調査・研究」「収集・保存」を進めるとともに、博物館の資料・情報を活用した事業に取り組みます。

博物館の資料・情報を活用した事業

1. 展示

基本テーマ「北・その自然と人」のもと札幌の自然・歴史・文化を実感する「本物」の迫力や魅力を伝えます。

- 札幌の自然が持つ独自性や地球規模で展開する自然の営みを、分かりやすく伝える「総合展示」
- 多様でタイムリーなテーマで市民の興味・関心を喚起する「企画展示」
- 夢中で取り組むうちに豊かな感性や知性を育む「子ども展示」、博物館や市民活動の最新の成果を展示する「トピック展示」など、多角的な展示

2. 教育・普及

札幌の自然・歴史・文化に関する多彩な学習機会を提供し、幅広い市民の学習意欲を啓発します。

- さまざまな体験・学習プログラムの提供、講習会などの開催
- 学校教育との連携、生涯学習の支援
- 市民研究者やボランティアなどの人材育成

3. 交流・連携

人々の交流を創出し、人・モノ（資料や機関）・コト（情報）のネットワークによりつながりを強め、活動を広げます。

- 市内各所（サテライト）との連携構築
- 学習交流の促進、市民活動の支援

博物館の基盤事業

4. 調査・研究

札幌の自然・歴史・文化に関する調査・研究を継続的に行い、データとして蓄積し、研究者のみならず市民に活用されるよう積極的に公開します。

- 地質時代から現代まで幅広い時代を対象とした、自然史の視点からみた札幌の自然・歴史・文化に関わる専門的な研究
- 札幌への人の集中、まちの形成史について、自然史の観点からの調査・研究
- 他の研究機関や、市民との共同研究の推進

5. 収集・保存

博物館のみならず札幌市の貴重な自然・歴史・文化資産となる標本群（コレクション）の形成・継承と、データベース*を構築します。

- 札幌の自然とまちの形成史に関わる中・長期的な収集・保存計画、計画に基づく資料の収集・保存
- 膨大な自然史関連資料のデータベース化とその活用

4. 博物館事業の概要

③長期的な成長・発展に向けての仕組みづくり

- 企画・運営に市民の参画を募り、調査・研究を市民とともに行う仕組み作りを整備します。
- 市内各所や関連施設との連携を構築して博物館活動を市全域に広げ、市民とともに成長する博物館にしていきます。

④市民に親しまれる博物館として留意すべき点

名所となる

札幌市における文化拠点としてシンボル性を発揮する活動や活動を支える施設内容

自慢できる

市民が誇り、対外的に自慢ができ、何度も足を運びたくなる施設

幅広い利用者

博物館の未利用・低利用者にも敷居が低く、子どもも楽しめる施設

信頼と安心

「本物」の知的資産に裏打ちされた博物館への信頼感、安心して利用できる安全な施設

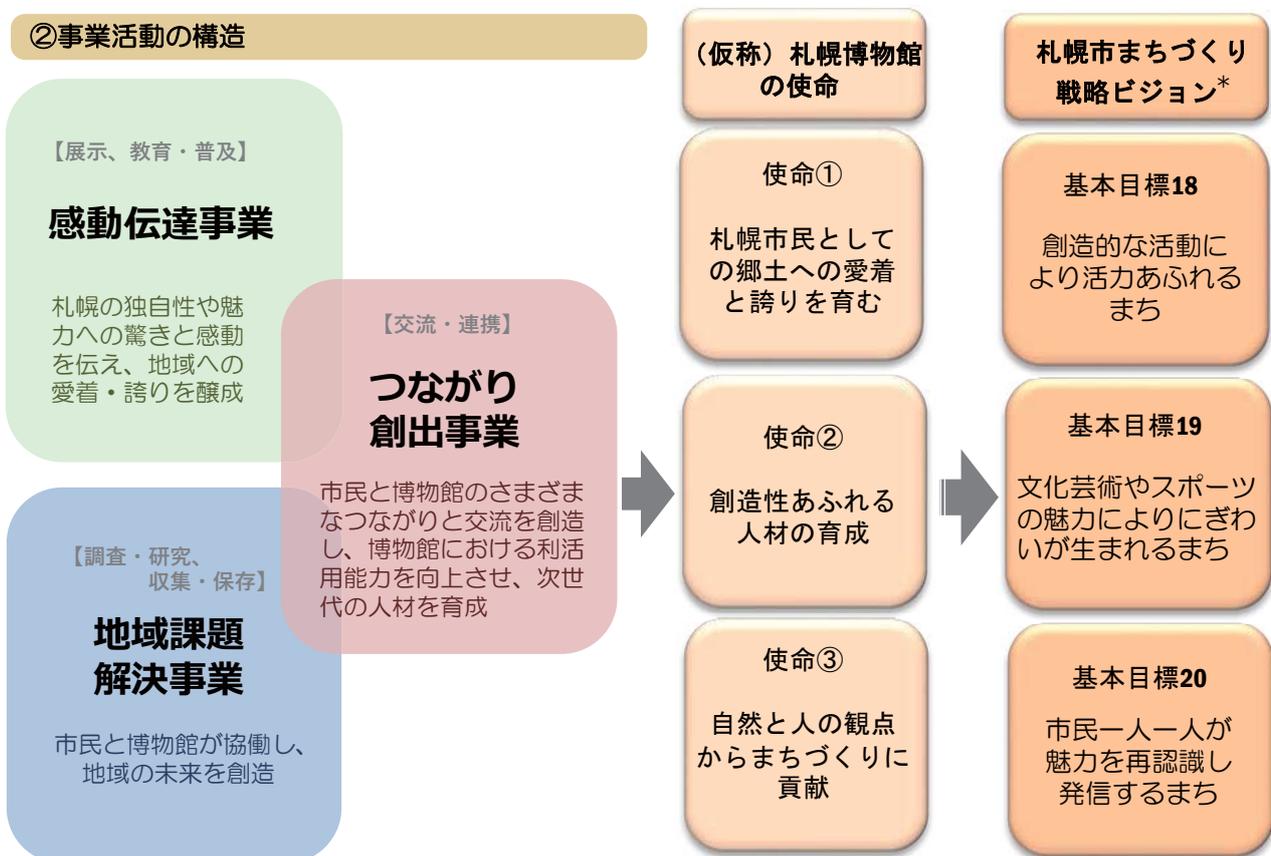
(2) 事業活動計画

①事業活動の考え方

市民とともに自然史の観点から札幌の独自性を明らかにする

- 館の使命と役割を明確にし、活動の地域とテーマを、札幌と石狩低地帯を中心に絞ることによって、施設設備、人員を限定します。同時に自然史の分野に重点を置くことにより他館との差別化を図ります。
- (仮称)札幌博物館がカバーできない分野については、既存の関連機関などと役割分担を行い相互の特徴を生かしつつ、補い合う「博物館活動のネットワーク」を形成することにより対応します。

②事業活動の構造



4. 博物館事業の概要

③活動内容について

- これまでの活動を生かし、（仮称）札幌博物館の柱となる3つの事業「感動伝達」「地域課題解決」「つながり創出」を相互に関連させながら事業を展開します。
- つながり創出事業は、感動伝達事業と地域課題解決事業、館外での様々な事業をつなぐ横断的な事業とし、活動拠点（コア*）と、つながり起点（サテライト*）をつなぎ、ネットワークを生みだす活動を展開していきます。

感動伝達事業

展示

- 博物館ならではの「本物」を通じて、子どもから大人まで楽しめる知的エンターテインメント*としての展示
 - 市民が参加できる展示
- ・総合展示
 - ・企画展示
 - ・展示見学支援 など



市民参加展示

学習支援

- 学ぶ楽しさを味わう体験学習、学校への出張事業
- ・学習支援
 - ・学習プログラムの提供
 - ・学校との連携 など



学校との連携事業

地域課題解決事業

資料収集・保存

- サップロカイギウをはじめ、札幌ならではの特色ある資料の収集・保存
- ・体系的な資料収集
 - ・資料の保存・管理
 - ・情報提供（レファレンス*） など

調査・研究

- 市民協働や、他機関とも連携し、調査・研究を充実
 - 資料・成果のデータベース化、博物館の知見の発信
- ・調査・研究
 - ・研究成果の発信・公開
 - ・研究交流 など



収蔵庫バックヤードツアー

札幌博物館の調査・研究領域について

- ・これまでの研究・標本群を保存・継承し、さらに、これらの活用と発展
- ・（仮称）札幌博物館の使命達成に向けて必要となる学問領域について調査・研究を推進

つながり創出事業

つどい・交流

- 市民が集い、活動するサロン*の展開
- ・市民活動の場の提供
 - ・情報発信の場の提供
 - ・交流・サービスの場の提供 など



市民の文化活動や交流の場となるエリアの整備

人材育成

- 市民研究者やボランティアなどの人材育成
- ・市民の自主活動の育成・連携
 - ・後援団体との連携
 - ・協働などの体制づくり など

まちなか連携

- 市内の資産を巡り、本物を体感するおさんぼミュージアムやタウンツーリズム*、ICT*を活用したいいつでも、どこでもだれでもが博物館を双方向に利用できる環境とコンテンツの提供など、館内外で展開する観光・交流事業

- ・web*上での情報発信
- ・出張博物館の展開
- ・市内各地のフィールド*における連携の展開 など



おさんぼミュージアム

4. 博物館事業の概要

④ボリュームゾーン*の考え方と対応

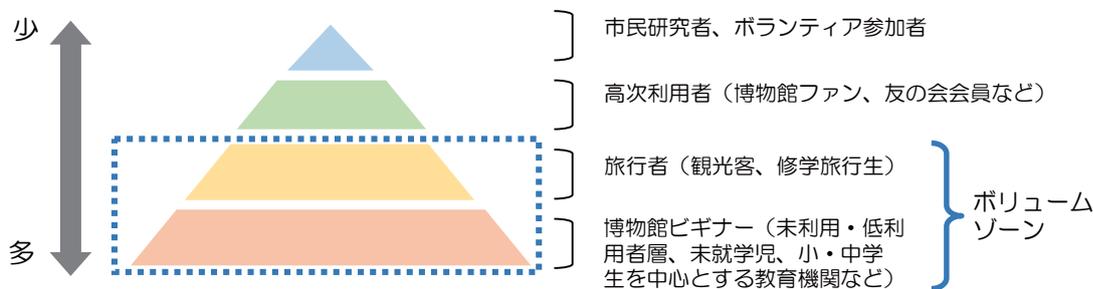
(仮称)札幌博物館の主要な来館者層を想定し、各層に応じた学習プログラム及びサービスの提供を図ります。札幌の地域について知り、学ぶ場となる(仮称)札幌博物館において、主要な来館者は「市民」です。

また使命3に掲げた、札幌の魅力発信によるにぎわい創出及び観光資源としての役割を果たす上で、「旅行者」も(仮称)札幌博物館の主要な来館者層と位置づけられます。

博物館運営にとって重要な集客に向けて、多くの人々が足を運ぶ施設にするため、子ども、親子連れのほか、博物館に対する関心の低い、または、これまで博物館を利用した経験が少ない人々で構成される「博物館ビギナー層」、観光客や修学旅行生など市外からの「旅行者層」をボリュームゾーンとして位置づけ、それらの取り込みを図ります。

ボリュームゾーンの来館拡大

- 多くの人々が足を運ぶ施設とするため、子どもを中心とする博物館の低・未利用者と札幌市を訪れる観光者を主たるボリュームゾーンと捉え、その来館意欲に働きかける展示や事業を構築します。



子ども・家族連れへの対応

- 未就学児を含む子どもや親子連れが実物標本や図鑑など、楽しみながら博物館に親しめる場を目指します。低年齢から楽しく見学し、理解できる展示や解説、事業内容を展開します。
- 子ども向け展示やワークショップコーナーなどの空間づくり、体験会・観察会など親子連れを対象としたプログラムの充実、子育て世代が利用しやすいサービスなどを提供し、家族で訪れ楽しめる環境を整備し、利用促進を図ります。

一般市民への対応

- 展示見学に限らず、博物館を憩い・集いなど、気軽に利用できる場とし、博物館への関心が低い、または、博物館の利用経験が少ない人々や若年層をも誘引する魅力づくりを行います。
- 多様なイベントや、話題性のある企画・特別展示などの開催を検討します。博物館に足を運ぶきっかけを拡大するため、エンターテインメント性の高いイベントの開催、巡回型の企画展の開催など、国内外の集客事例を踏まえ従来の博物館来館者層にとどまらない、新たな来館者層の創出を図り博物館ファンの増加を目指します。

国内外旅行者への対応、観光スポットとしての利便性向上

- 国内外からの観光客、修学旅行生に対し、札幌の魅力や特徴が分かるコンテンツ*を盛り込むとともに、滞在時間の限られる人を想定した動線づくりを検討します。
- 増加傾向にある海外観光客に、札幌の自然・歴史・文化のより深い理解を図り、札幌ファン創出につなげるため、館内情報の多言語化を目指します。
ICTを効果的に活用し、パソコンやスマートフォンなどのデジタルツール*を使った解説サービスの実施、周辺案内など、海外観光客にとっても分かりやすい役に立つ情報提供を検討します。
- 来館・来札記念となるグッズやサービスの提供を行うミュージアムショップ、居心地良く休息のできるカフェなどの導入を検討します。

4. 博物館事業の概要

⑤国内をリードする博物館を目指して

これから作られる博物館として、従来の枠組みにとらわれない新しい取り組みや、実験的な試みを行い、国内の博物館をリードする存在を目指します。

新しい価値を創造する博物館

- 札幌で培われてきた独自の自然・歴史・文化などの価値を人々に伝え、市民の学びやさまざまな文化活動の促進に資するとともに、札幌ならではの取り組みとして、ユネスコ創造都市ネットワーク*に加盟するメディアアーツ*都市としての特徴を生かして、産業、芸術、科学など、幅広い分野との連携を図り、自然とアートが融合した展示や、先進的な空間演出技術を活用した体験プログラムの開発など、これまでにない新しい価値を創造する事業活動を目指します。
- これまでの計画において、博物館を活動拠点（コア）とし、市内各地のつながり拠点（サテライト）と連携しながら、事業を推進していくこととしました。
活動拠点となる博物館では、市民や、自然科学、産業、芸術分野などの人々と協働し、ともに札幌の自然を探求していく過程で、新たな発見を生み、そこから発展した多様な博物館活動がさらなる発見や、新しい価値の創造に結びつくような好循環の創出に向け、従来の枠組みにとらわれない広がりのある事業展開を図っていきます。

さまざまな体験の仕方や、これまでにない体験ができる博物館

- 市民が博物館に足を運びたくなり、リピーターになるためには、博物館に多様な来館動機があり、参加・体験要素のあることが重要です。展示物を単に見るだけではなく、「遊び」「憩い」「学び」なども含めたさまざまな体験、デジタルコンテンツの活用などによる臨場感あふれる体験、多様な展示の見方ができたり、詳しく掘り下げられるなど多面的な学習機会の提供、また、日中だけではなく、夜間においても博物館を有効に活用するプログラムやサービスを導入するなど、来館者にとって多様なストーリー*で体験できる博物館を目指します。

地域活性化、観光振興に貢献する博物館

- ICTを含めた最先端技術の活用により、博物館の屋内外を問わず、札幌市内全域をフィールドとして、地域の自然や街について楽しみながら学べる場にします。札幌の自然や街が持つ独自の魅力を伝える拠点として、（仮称）札幌博物館が、街歩きの起点・終点になるようなツアーの提供や、ツアーガイド人材（インタープリター）との連携など、地域の活性化に貢献する場を目指します。
- 札幌を訪れる外国人観光客は増加傾向にあり、平成29年度上期には外国人宿泊客が5年連続で過去最高を記録しました。外国の方への対応として、ICT技術を活用した多言語化の推進、札幌への理解を正しく深めてもらうための解説・伝達事業の実施など、先進的な取り組みを検討します。
- （仮称）札幌博物館を起点として市内各所に出掛けていけるよう、旅行者や観光客などのニーズや滞在時間に応じたさまざまな楽しみ方のメニューやアイデアの提供を検討します。

5. 展示の基本的な考え方

(1) 基本方針

①展示の具体化に向けての視点

- 集客性向上の観点から、博物館の低・未利用者や子ども、観光客なども楽しめ、驚きと感動を与える展示を展開します。

“わかる”はおもしろい!

知的エンターテインメントとの出会い

札幌の自然・歴史・文化をさまざまな関連性を通して“わかる”、学際的な探求のおもしろさを知的エンターテインメントとして展開します。

夢中になるほど楽しい!うっとりするほど美しい!

理屈抜きで楽しい!本物が持つ圧巻の臨場感

本物が持つ資料の存在感だけではなく、空間全体を使った演出や、体感的な手法などにより、思わず夢中になるほど楽しく、美しい自然史の世界に飛び込めるような臨場感を演出します。

人と未知との出会いの場

利用者が主体の活動が見える展示

地域の学習拠点や、市民の自主的活動の知恵袋としての活動など、利用者が参画する利用者主体の博物館活動が見える展示を展開します。

②札幌ならではの展開に向けて

何を(内容)

札幌の自然・歴史・文化、そして人の関わりについて、自然史の視点から札幌の独自性に迫る。

誰に(対象)

幅広い人々を対象としながら、集客性向上の観点から、博物館への関心が低い低・未利用者や旅行者も楽しめることを重視。

どのように(演出・手法)

光や音、映像、デジタル技術などの演出・手法を用い、感性を刺激し、多くの人に感動を広げる展示を展開。

③さっぽろの独自性を示すテーマの整理

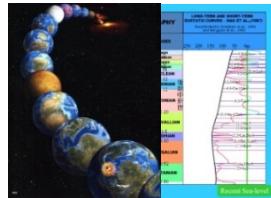
- 『(仮称)札幌博物館基本計画』においては、札幌の独自性や魅力を伝えるため、基本テーマ「北・その自然と人」に基づいた、札幌の自然・歴史・文化の独自性を5つのテーマで構成し、様々な手法を用いて展示するとしていました。その後、パブリックコメントなど多くの意見を取り入れ、平成27年に作成した『(仮称)札幌博物館基本スキーム』において、札幌の自然・歴史・文化をそれぞれテーマ別に編成し直し、3つのテーマとしました。この3つのテーマは、『(仮称)札幌博物館基本計画』においてまとめた5テーマの内容をすべて網羅しています。
- 時系列に沿った展示展開の場合、博物館の意図する順路どおりにすべての展示を観ることによって内容を理解するのが一般的ですが、(仮称)札幌博物館では今回のテーマの再編によって、3つのテーマのうちどのテーマ展示から観ても学ぶことができ、滞在時間に応じて観るテーマを絞っても理解できる仕組みとしました。

(仮称)札幌博物館基本計画

- ①石狩低地帯が形成される1億年をアニメーションで紹介
- ②札幌の山や川や台地の形成過程を映像化



- ①生命の誕生から人類までを代表的な岩石と化石で解説
- ②札幌で世界が注目する化石が産出する理由を映像化



- ①豊平川の氾濫によって形成された地形形成過程と立体模型
- ②自然と共生した暮らしを自然史の視点で展示



- ①札幌の「北方系」「南方系」の自然と文化に関する展示
- ②札幌独自の文化形成に関する自然背景を紹介



- ①札幌の街の歴史との関わりを紹介
- ②札幌の街並の形成をジオラマ展示



1
自然景観の形成

2
生命と生物の進化

3
自然と人類の共生

4
さっぽろの交流史

5
さっぽろの形成史

(仮称)札幌博物館展示・事業基本計画

導入展示 北緯43°の街

キーワード **札幌を学び楽しむヒント**
導入部として、博物館のガイダンス*と札幌を学び楽しむヒントを提示

テーマⅠ 札幌の生命と進化

キーワード **札幌の巨大化石**
なぜ札幌から巨大生物が誕生したのか、北海道・札幌の成り立ちから生物巨大化の謎に迫る

テーマⅡ 札幌の自然

キーワード **北と南が出会う街**
なぜ札幌の自然は人々から愛されるのか、札幌独自の魅力的な自然をその成り立ちから謎に迫る

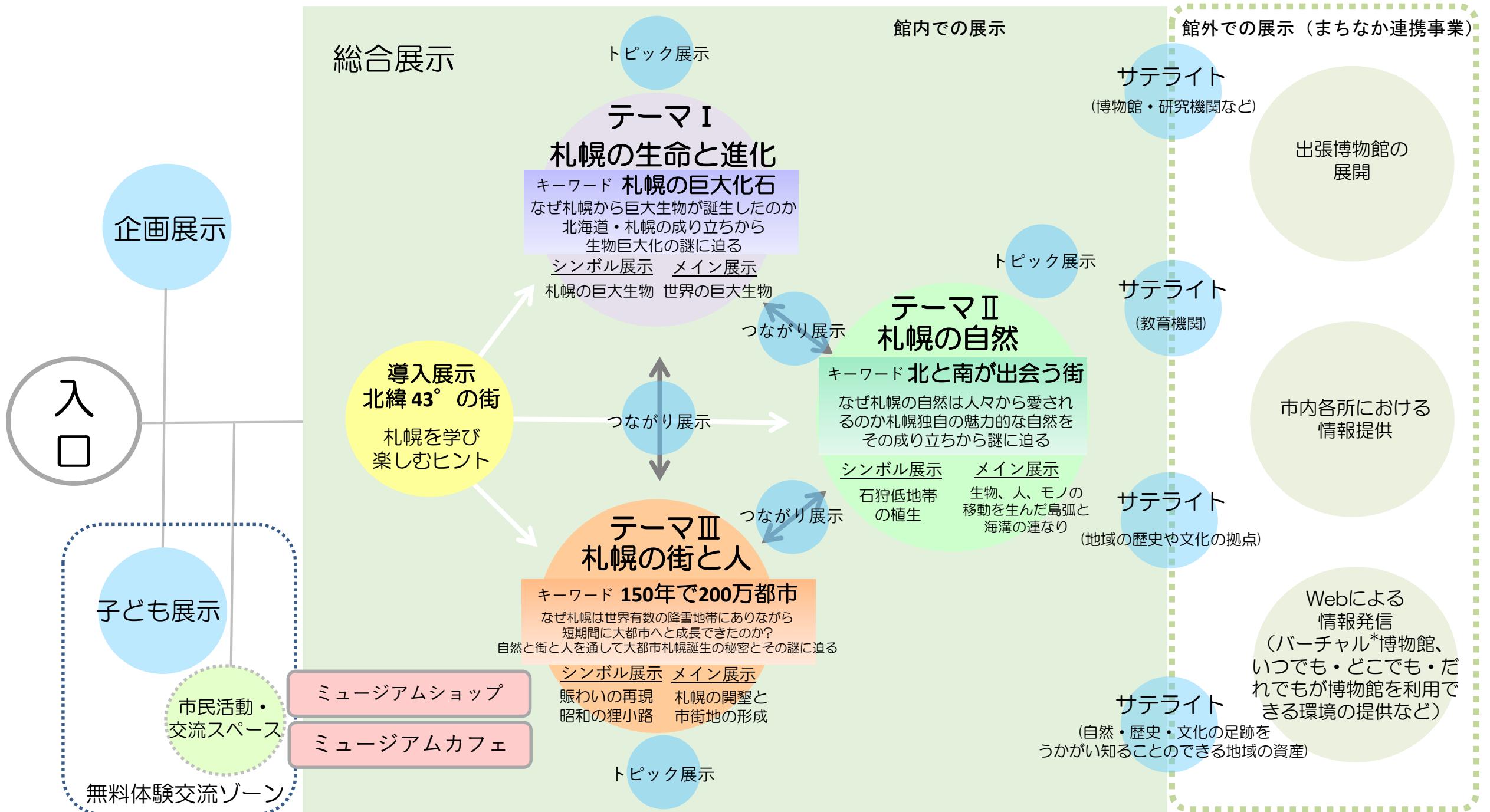
テーマⅢ 札幌の街と人

キーワード **150年で200万都市**
なぜ札幌は世界有数の降雪地帯にありながら短期間に大都市へと成長できたのか?自然と街と人を通して大都市札幌誕生の秘密とその謎に迫る

5. 展示の基本的な考え方

(2) 展示構成計画

- 「導入展示」では札幌を訪れる誰もが馴染みのある、あるいは市民にとっては意外な、隠れた札幌の魅力^{ふかん}を「北緯43度」という視点から映像で俯瞰的に紹介します。博物館で札幌を学び、札幌を楽しむためのヒントを提供し、「自然史」の視点から札幌の自然・歴史・文化の独自性を総合的・体系的にまとめた3つのテーマ別展示へ思い思いに進むことができるよう誘導します。
- 総合展示については、(仮称)札幌博物館基本計画において札幌の独自性や魅力を伝えるため5つのサブテーマ展示の構成を示していました。本計画の策定にあたり、効果的な展開方法を検討した結果、構成要素に変更はありませんが、テーマの区分けを「札幌の生命と進化」「札幌の自然」「札幌の街と人」の3つとし、札幌の自然・歴史・文化の独自性を体系的・総合的に感じられる展示展開をすることとします。各テーマを解説する展示物の集合体である「メイン展示」や「メイン展示」のなかでも明瞭にして象徴的な注目すべき展示物である「シンボル展示」などを中心にした展開を行い、各テーマのストーリーを途切れなくつなぐための「つながり展示」を設け、どのテーマから見ても楽しい、どこで見終わっても分かりやすい展示動線を提供します。
- 博物館のコレクションや最新の研究成果を展示する小さな企画展示スペースとして、個々のテーマを深める、あるいはタイムリーな話題を取り上げる「トピック展示」を展開し、定期的な展示入替を行います。学芸員の最新の研究成果発表の場として、また市民との共同研究の成果や市民グループの研究成果発表の場として活用し、多様な視点から捉えた「札幌」の姿を常に展示できる場とします。
- 人々の興味・関心を喚起する、多様なテーマで構成する「企画展示」を実施します。また、「子ども展示」では、子どもたちや親子が毎日、夢中で楽しく遊ぶことのできる展示を提供します。
- 館外での展示関連(まちなか連携)事業として、出張博物館を展開する他、市内各地のつながり起点(サテライト)での情報提供、ICTを活用したWebによる情報発信など、札幌の自然・歴史・文化資源を活用した多彩な活動を展開します。



(3) 展示の特徴

●札幌の自然を解き明かす博物館として、地球史の事件ともいえる生命誕生と生物の進化、北半球の中緯度地方という立地条件が現在の札幌の自然と街を育んだ経緯について、生命と自然がたどった、今の自分につながる壮大な物語を驚きと感動を持って実感できます。

●現在の札幌が生まれた背景には、「自然」が大きく関わっています。札幌の自然の「なぜ？」を探ることで、今日の札幌がある理由を知ることができます。来館者は、謎を解き明かす旅人となり、知的エンターテインメントの旅へと出発します。

札幌の自然に隠された謎とその秘密!

テーマⅠ：札幌の生命と進化

●なぜカイギュウやクジラは札幌で巨大化したのか？



なぜ札幌から巨大生物が誕生したのか
北海道・札幌の成り立ちから生物巨大化の謎に迫る

テーマⅡ：札幌の自然

●なぜ札幌の自然は多くの人から愛されるのか？



なぜ札幌の自然は人々から愛されるのか
札幌独自の魅力的な自然とその成り立ちから謎に迫る

テーマⅢ：札幌の街と人

●なぜ150年で200万人道都が誕生したのか？



なぜ札幌は世界有数の降雪地帯にありながら短期間に大都市へと成長できたのか？
自然と街と人を通して大都市札幌誕生の秘密とその謎に迫る

6. 各展示の概要 (1) 導入展示 北緯43°の街

キーワード **札幌を学び楽しむヒント** 導入部として、博物館のガイダンスと札幌を学び楽しむヒントを提示します。

【導入展示のねらい】

- 札幌の自然、街や人の魅力を体感させ、興味を喚起します。
- テーマ展示の見出しとして、各テーマで扱う内容を垣間見ることができ、期待を高めます。
- 札幌についてよく知らない子どもや、観光客、修学旅行生も、一目で「札幌らしさ」や、札幌の魅力を理解できる展示とします。

【展開イメージ】

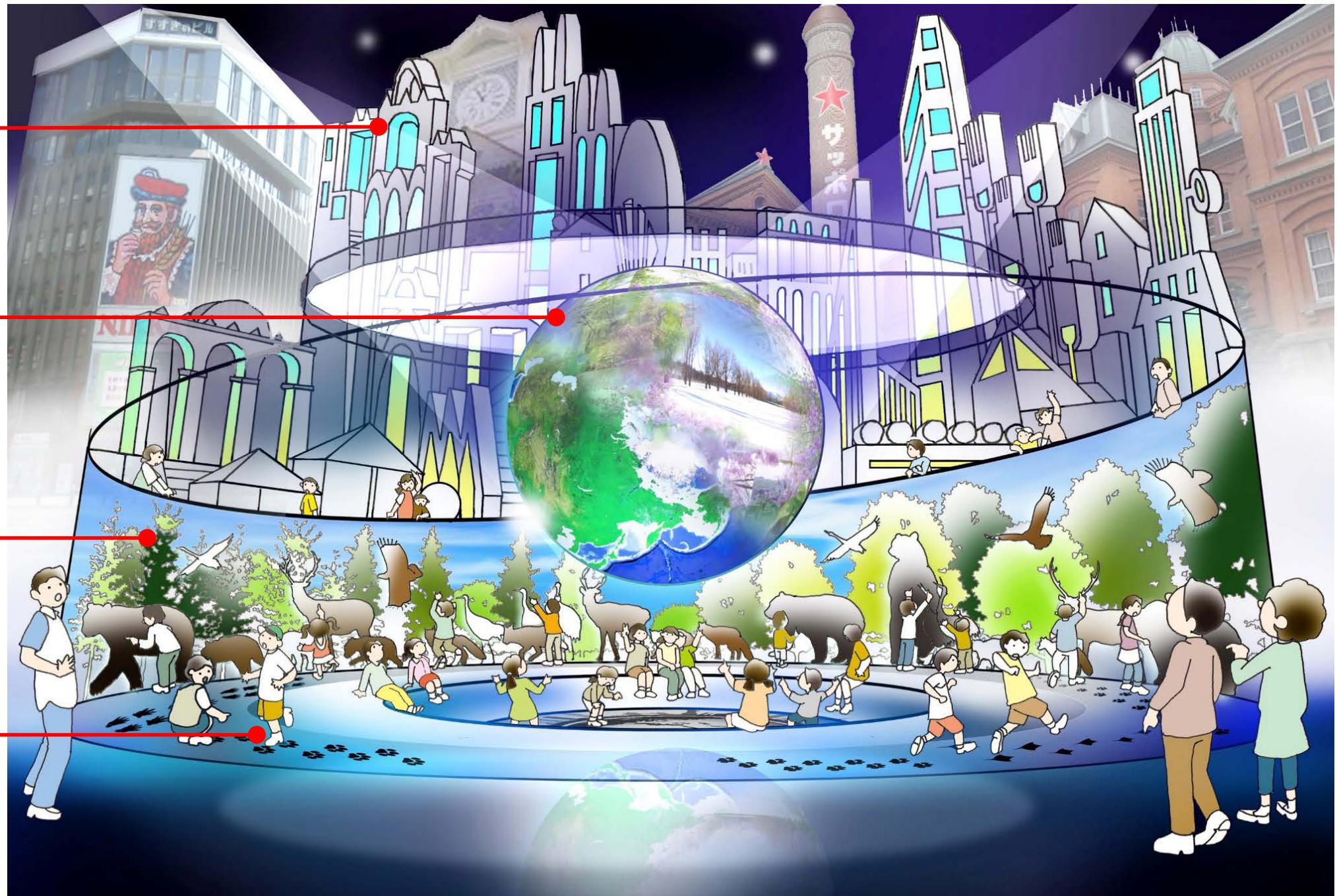
- 北緯43度に位置する世界の都市の中で、200万人都市を誇るのは札幌だけです。
水資源に恵まれ南北の生き物が混在する生態系の多様さ、多くの人が住みたくなる札幌の魅力や特徴を、世界の都市との比較によって際立たせます。
- 札幌の四季折々の美しい風景、雪、街の魅力を、双方向性のある映像などで体感できます。
- 音や映像などを交えながら、ただずんでいるだけで楽しく、子どもも遊びながら札幌の魅力に触れられる展開とします。

札幌の四季の美しい風景や、街の魅力を体感できる、没入性のある演出を展開します。

世界の中の札幌の位置や、同緯度の他都市と比較することにより、札幌の魅力と特徴を伝えます。

これから見学する各テーマ展示のガイダンスとなり、期待感を高める映像などを映し出します。

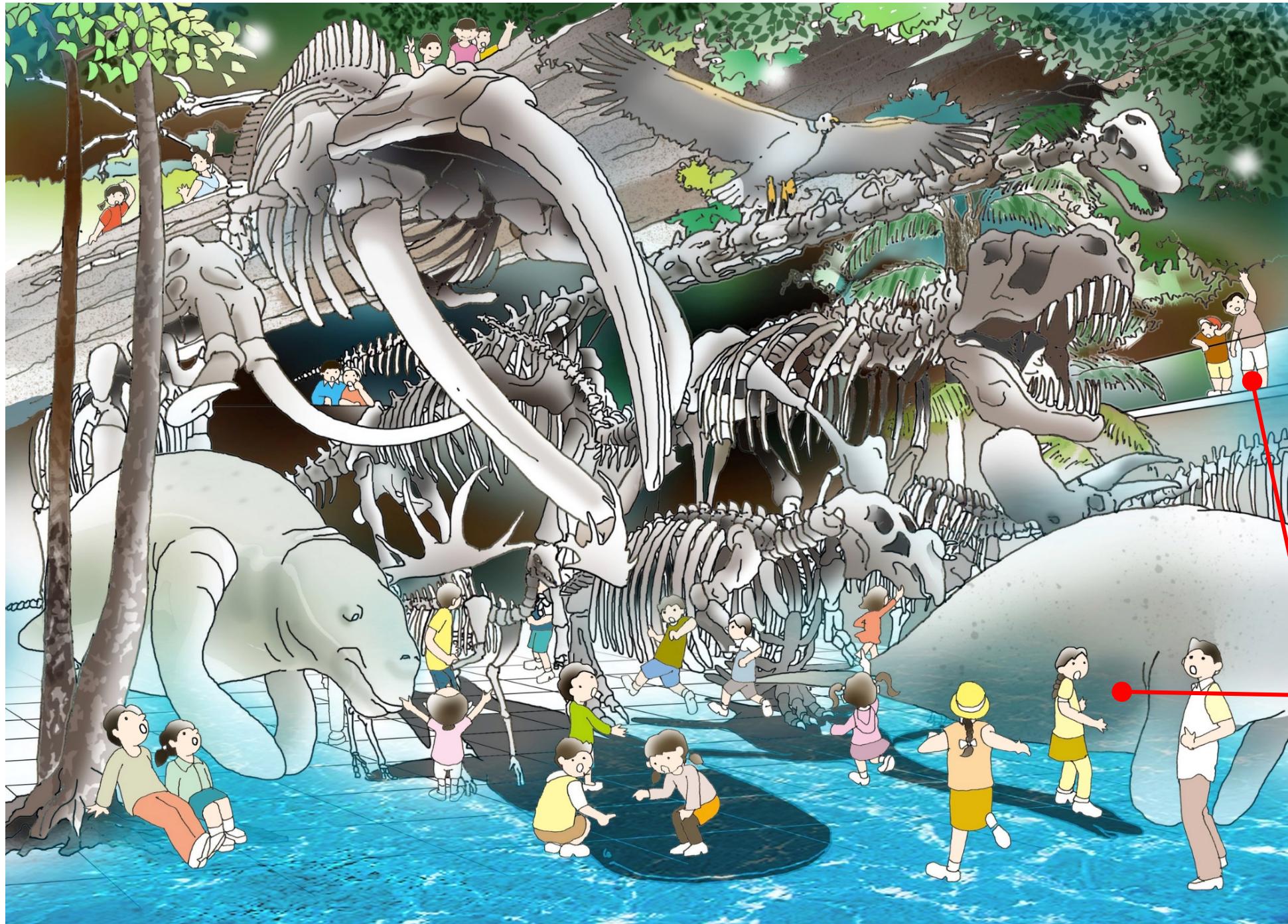
雪が降ったり、動物の足跡、花吹雪など、床面に映像を投射し、その動きを追いかけるだけでも楽しい演出を行います。



キーワード 札幌の巨大化石

なぜ札幌から巨大生物が誕生したのか、北海道・札幌の成り立ちから生物巨大化の謎に迫ります。

「札幌の生命と進化」では世界に先駆けて巨大化し、世界へ広がった札幌の巨大生物、サッポロカイギュウと小金湯産クジラ化石の進化過程を骨格と生体でシンボル展示し、世界の陸や空で巨大化した生物をメイン展示とすることで、札幌ならではの、札幌にふさわしい、巨大化の謎に迫る世界に類を見ない自然史博物館を実現します。「巨大化」の背景には、世界的な気候変動やプレート運動*などにより誕生した札幌独自の自然とその成り立ちがあることを「つながり展示」としてテーマⅡ「札幌の自然」へ展開します。



メイン展示

世界の巨大生物

～植物、昆虫、甲殻類、両生類など、さまざまな時代を代表する巨大化生物を展示する。～

シンボル展示

札幌の巨大生物

サッポロカイギュウ ・ 小金湯クジラ

～地球環境の変化による動植物群の南北移動に伴い、札幌では、サッポロカイギュウや小金湯クジラが現れるなどいち早く巨大化した。

札幌で巨大化した特徴ある生物をシンボル展示として取り上げる。～

標本は下から見上げたり、上層階から見たり、さまざまな角度から見学・観察ができます。

キーワード **北と南が出会う街**

なぜ札幌の自然は人々から愛されるのか、札幌独自の魅力的な自然についてその成り立ちからその謎に迫ります。

「札幌の自然」では、札幌が好きと答える9割以上の市民がその理由にあげる「明確な四季」と「緑豊か」な自然が、北緯43度という中緯度に位置することで生み出されたことを臨場感のある展示で展開します。「明確な四季」の景観を作り出す針葉樹林と広葉樹林の植生、緑豊かな大地からは季節ごとに恵みがもたらされ、人々が自然のリズムに沿って暮らしてきたことをシンボル展示とします。メイン展示は、南北に連なる日本列島とそれに連なる太平洋西端の弧状列島群を、過去から現在まで行き来した野生生物、人、モノなどの「自然の回廊」として捉え、札幌独自の自然・歴史・文化の形成について世界的視野で紹介します。さらに、札幌の四季を際立たせ生物の特徴ある生息分布に関係する「雪」や、大都市札幌のなりわいを支えた「豊平川」などを「つながり展示」とし、テーマⅢ「札幌の街と人」へ展開します。



シンボル展示

石狩低地帯の植生

～札幌が生物の南北移動の交差点となったことを象徴し、札幌の生物や環境の多様性の背景にある冷温帯と温帯の植生をあわせもつ針葉樹と広葉樹が混生する森林を再現し、森の中にいるような臨場感ある展示をします。～

トピック展示

札幌の昆虫

サッポロの名を持つ生き物

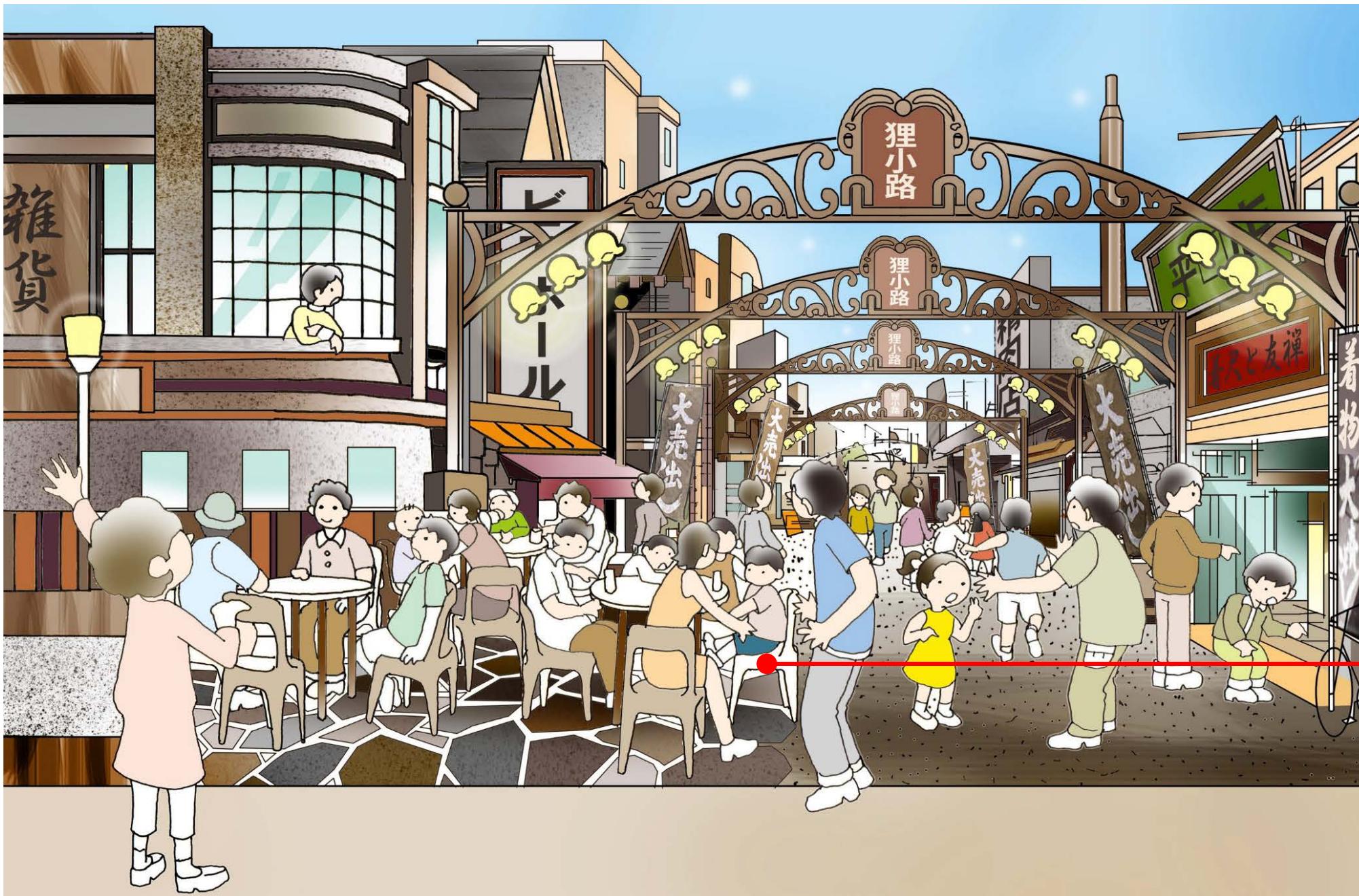
豊平川の生態系

多雪地の生き物 など

キーワード 150年で200万都市

なぜ札幌は世界有数の降雪地帯にありながら短期間に大都市へと成長できたのか？ 自然と街と人を通して大都市札幌誕生の秘密とその謎に迫る

「札幌の街と人」では、なぜ原野同然の札幌を道都と定め、街づくりが始められたのかを食糧の確保、各種資源、生産性、流通、エネルギー確保、防衛などからその必然性を説明するとともに、わずか150年で今日の発展を成し遂げた札幌独自の街づくりの経緯についてメイン展示で展開します。さらに、札幌の賑わいの基点・狸小路の一部を実物大に復原*展示、その一部をミュージアムショップやミュージアムカフェとして活用することで臨場感豊かな街並みを再現します。



メイン展示

札幌の開墾と市街地の形成

～札幌には本格的な開拓が始まった明治初期から現代までの記録が絵図や写真などで詳細に残されています。それらを用いて札幌の過去から現在、そして未来を感じることでできる札幌の街のなりたちを展示します。～

ミュージアムカフェ・ ミュージアムショップ

シンボル展示の一部は、無料ゾーンと交差し、ミュージアムカフェやミュージアムショップとして楽しめるスペースにします。